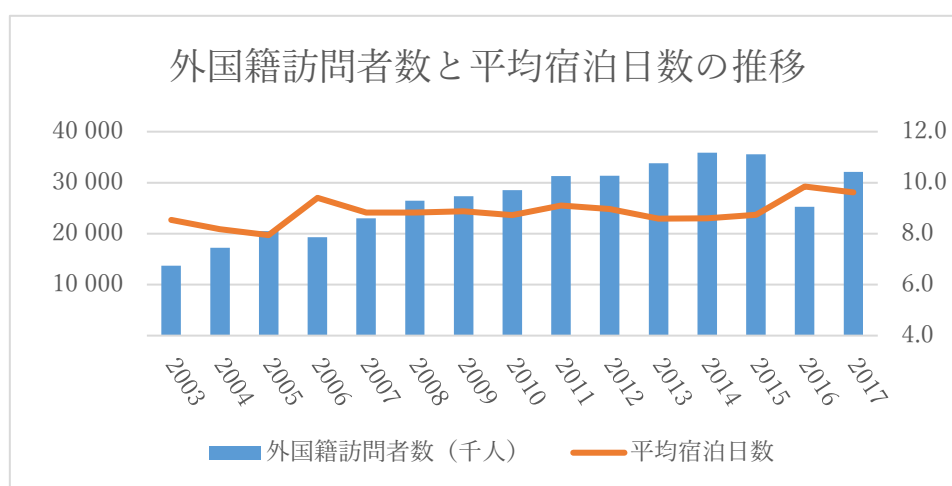


【特集：トルコを訪れる外国人に関する統計】

今号の特集では、トルコを訪れる外国人に関する統計をご紹介します。これらの統計は、観光業だけでなく、トルコの経済、政治、外交などの背景も映し出す重要な切り口となっています。

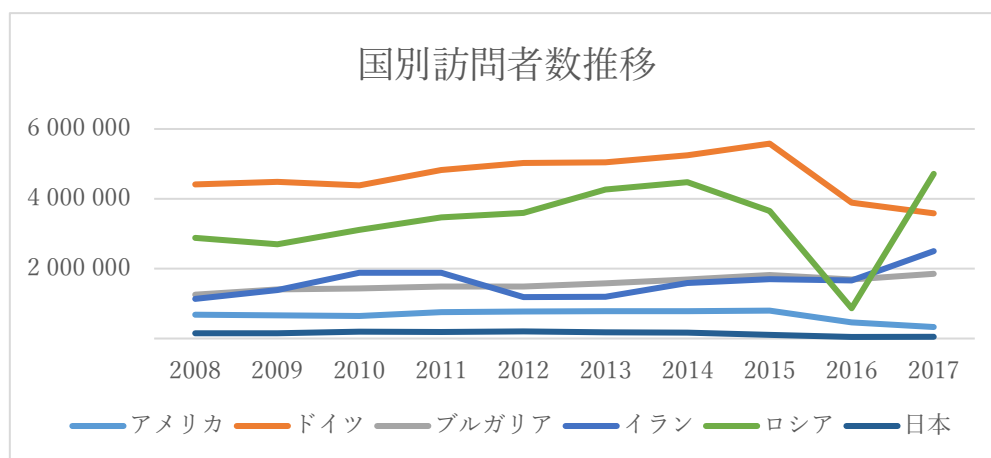
下のグラフは、トルコを訪問した外国籍の方の人数と平均宿泊日数の推移です。2016年の急激な減少から、2017年には順調に回復の傾向をたどっていることがわかります。平均宿泊日数については、大きな変動はなく、平均8日~10日となっています。



出典：トルコ統計機構

注：本データは、外国籍者を対象にした出国統計です。海外在住の二重国籍保持者などは含まれておりませんので、一般的な観光客数の統計とは数字が一致しない場合があります。

下のグラフは過去10年の出身国別訪問者数の推移です。

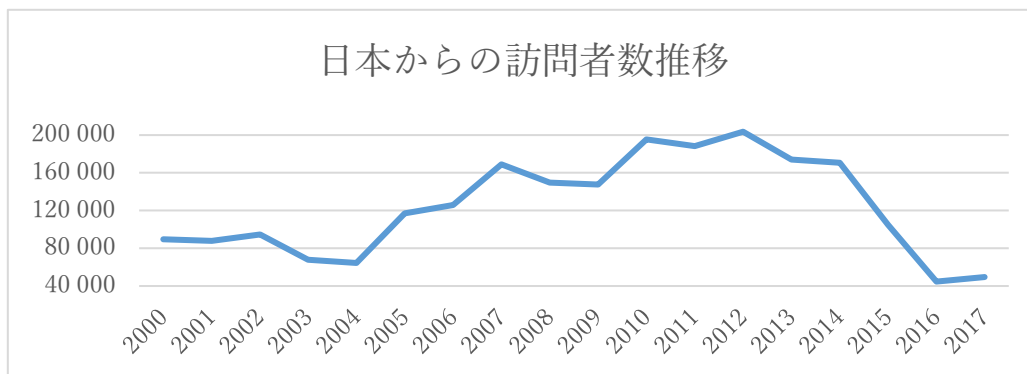


出典：トルコ統計機構

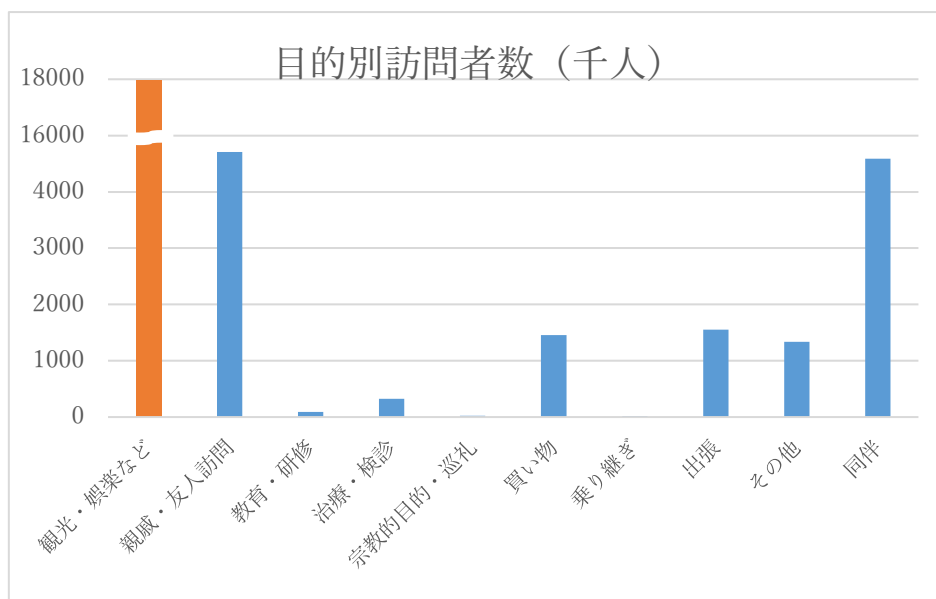
2017年、最も多かったのはロシア国籍の訪問者で12.2%、続いてドイツが9.3%でした。

2015年11月のロシア機撃墜を受けてロシア政府が発動していたトルコへの渡航規制や経済制裁が解除された影響もあり、ロシア人による訪問は両国の関係悪化以前を上回る数を記録しました。

日本からの訪問者については、2012年のピーク以降、下降傾向にあり、2016年には大幅な減少が見られましたが、2017年には徐々に回復しています。

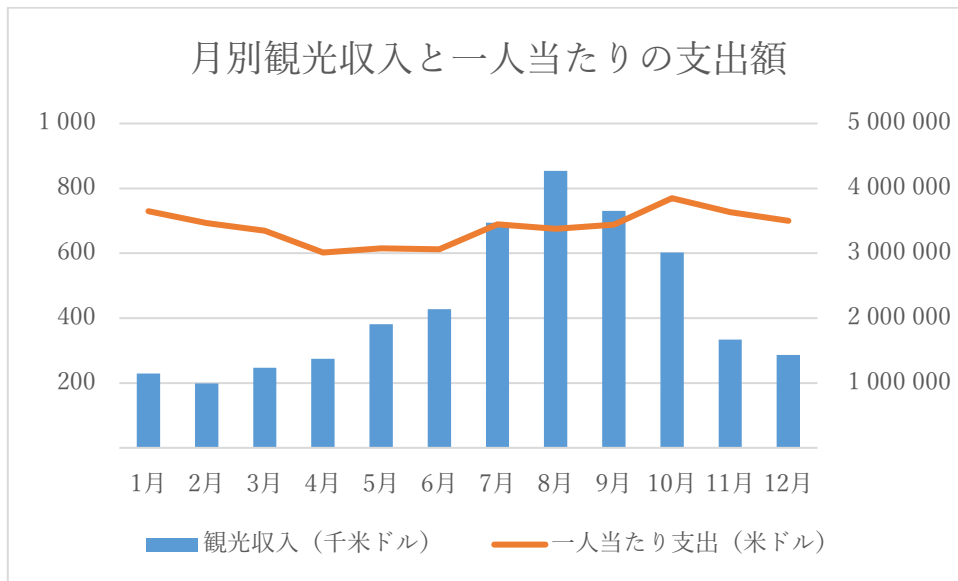


トルコ訪問の目的は、観光の他に出張、教育、治療など多岐にわたっています。近年では治療や検診を目的としたヘルスツーリズム目的の渡航者が、近隣諸国を中心に増加しています。病気治療のみならず、視力回復手術や植毛手術等も人気のようです。



出典：トルコ統計機構

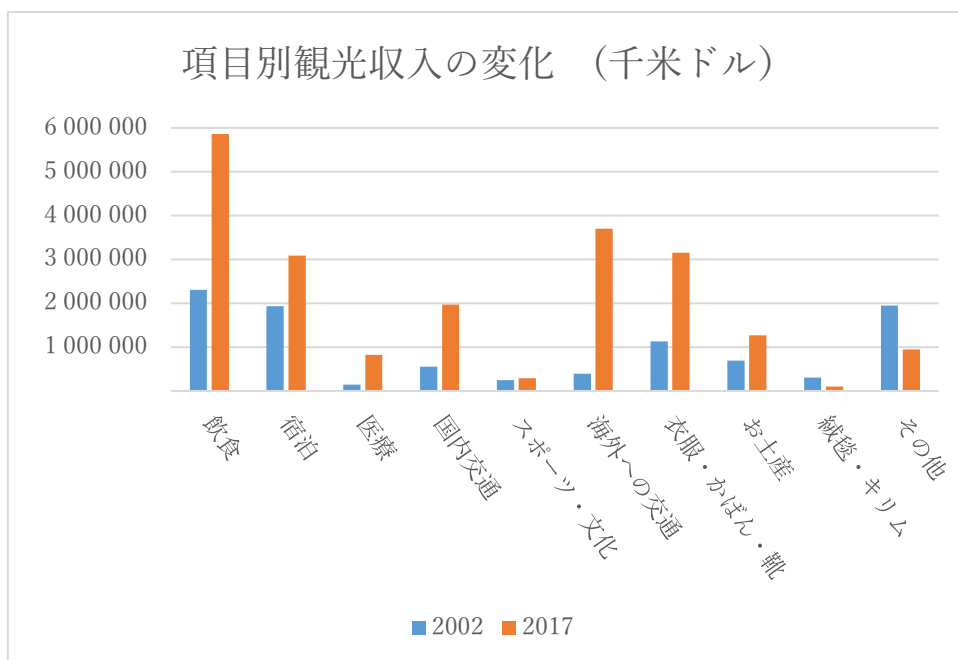
観光収入はトルコの GDP の 3%~5%を構成する重要な要素ですが、収入のピークは7月~10月にかけてとなっています。



出典：トルコ統計機構

下のグラフは、観光収入を項目別に表したものです。

2002年と2017年を比較すると、トルコを訪問した方の支出の動向の変化が分かります。物価変動の影響もありますが、飲食と宿泊における大幅な増加は、トルコ資本および外資の高級ホテルや、おしゃれなレストランなどが増え、付加価値の高いサービスの提供が増えたことも背景にあると思われます。



既述のとおり、ヘルスツーリズムの成長もグラフに表れています。
海外への交通の項目は、トルコ企業が提供する国際線（陸海空）の利用を表しており、グラフからもかなりの増加が見てとれます。

衣服やかばんなどファッションアイテムの購入が大幅に増えている一方で、絨毯やキリムなどの製品は、15年間で約1/3に減少しています。トルコを訪問される方々の趣向にも変化があるようです。

今回は外国人訪問者の動向に着目して統計をご紹介いたしましたが、別の機会にトルコの観光業などについてもご紹介させていただければと存じます。

資料についてのお問い合わせ先： 駐日トルコ共和国大使館 商務部
担当：齋藤 (03-3470-6723/i-economy@turkey.jp)